

地域密着型サービス事業者 自己評価表 (1 F)

(認知症対応型共同生活介護事業所 , 小規模多機能型居宅介護事業所)

| | | | |
|-----------|----------------------------------|---------|------------|
| 事業者名 | グループホーム あらた | 評価実施年月日 | 平成20年7月11日 |
| 評価実施構成員氏名 | 田中 ・ 野杉 ・ 斉藤 ・ 佐藤 ・ 堀籠 ・ 穴戸 ・ 竹中 | | |
| 記録者氏名 | 田中 | 記録年月日 | 平成20年7月31日 |

北 海 道

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|---|----------------------|--|
| . 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念の共有 | | | |
| 1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。 | GHホーム理念として安心と尊厳のある生活、個人の性格、能力を発揮できるよう、地域住民としてその人らしく生活できるケアに努めている | | |
| 2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 毎日の朝礼にて企業理念の唱和を行う事で意識の統一と理念に基づき毎月1回介護ミーティングやショートカンファレンスを随時実施している | | |
| 3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。 | 定期的に運営推進委員会を実施し、事業主が町内会の役員を務めており、町内会の会合などでGHの取り組みを理解して頂けるよう取り組んでいる | | |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 玄関周りに植木や季節を楽しめるような花鉢の設置や野菜の栽培をしたり、入居者と散歩へ出かけた時や出勤・退勤時など挨拶をして、隣近所の方々と日常的なお付き合いが出来るように努めている | | |
| 5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 町内会の老人会、行事等には積極的に参加し、近隣の幼稚園児の訪問など地元の人々と交流を深めている | | 消防訓練の際、消火器訓練・救急救命の講習など積極的に声かけを行い、参加して頂いており交流を深めている |
| 6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 事業主が町内の役員をしている事から、役員などで数回地域の高齢者宅を訪問し、暮らしの状況を訪ねている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|---|----------------------|---|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | |
| 7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 前年度の評価内容を活かしながら朝礼や介護ミーティングなどで1つ1つ話し合ったり、記録に残し回覧するなどし、日々検討している | | 前年度の評価で指摘された救命救急法の勉強会の実施や個人記録方法の検討などを実践する。確認や見直しは意義のあることと職員一同理解し、今後も定期的な評価により、より良いGH作りをしていきたい |
| 8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 4月24日・5月19日・7月20日に開催し、意見の交換やGHでの取り組みなどの報告会を行う | | |
| 9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 市担当者と質問事項を通じて指導・助言を受けるとともに、直接市担当者が当ホームへ見学に来られるなどサービスの質の向上に取り組んでいる | | |
| 10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 司法書士より権利擁護に関する知識の指導を受けるほか、その都度状況・判断に応じたアドバイスを受けている | | |
| 11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 研修資料の回覧、介護ミーティング時に内容を報告し知識を高め、常日頃話し合いを行っている | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 入居者・御家族様と事前面談を行い、運営説明や入居に関する一切を事前に説明し、同意を得ている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|--|-------------------|---|
| 13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 苦情相談員を決め、意見・不満・苦情には速やかに管理者・職員で検討している | | |
| 14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。 | 月に1度入居者便りを発行し、GHでの生活状況、健康状態を直近の写真をつけて御家族様へ送付しており、特変時にはその都度、御家族様に連絡している。金銭管理は個々に出納帳で管理し、便りと一緒に送付したり御家族様の面会時に確認して頂いている | | 認知症に対する理解や日常の健康管理・病気に関する知識を深めて頂くことを目的に、様々な病気や対処方法など生活に役立つ情報を別紙にて送付している |
| 15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | GH玄関に御意見箱・用紙を設置し、意見を寄せて頂けるよう提示している。御家族様面会時に声かけを行い、要望などを聞いている | | |
| 16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 日々の業務内での会話から意見・提案を取り入れ、朝礼・介護ミーティング内での意見交換や個人面談をするなどし、職員の声を傾聴している | | |
| 17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。 | ゆとりのある時間を配分した上で、入居者の緊急時に即対応できるよう調整している | | |
| 18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | 都合により退職者がある場合、職員を事前に採用し引き継ぎなど時間をかけ、極力不安を感じないよう配慮している | | 職員の採用が内定した時点で当GHの雰囲気を感じながら入居者とコミュニケーションを深めて頂くために事前に時間を取り、交流を図ってもらう配慮をしている |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|---|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 積極的に研修に参加し、研修内容を休憩室に掲示したり介護ミーティングで報告して情報の共有を図っている。外部から講師を招いた勉強会も実施している | | |
| 20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 数社で介護支援に係る多様な情報を研修会などに参加し、グループワークを通じ、職員同士の交流を深め、質の向上に取り組んでいる | | 研修を通して交流を図り始めたGHからの依頼でアンケートに答えたり、以前職員が勤務していたGHなどと意見交換を行っている |
| 21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | 最低年2回以上、全員参加の親睦会を開き、個々の悩みや疲れを癒す相談窓口を設けている。また入居者の行事は職員に計画から実行まで任せ、入居者・職員ともに楽しめる時間をつくっている | | |
| 22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。 | 介護を一緒に行う中から個々の介護などに対する考え方などを把握し、基本理念に基づき個性の向上が活かされる環境づくりに努めている | | |
| . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。 | 初期アセスメントに重点をおき、日々本人と対話する機会を作り、本人が求めている希望を把握・受け止めるように心がけている | | |
| 24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。 | 初期アセスメントに重点をおき、話し合う機会を設け、その都度御家族様からの相談を受け対応している | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|--|-------------------|--|
| 25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 初期アセスメントを重点におき、それに相応したサービスの説明を行い、内容を把握・理解して頂いている。御本人様・御家族様の意向なども合わせて確認し、必要とする支援を見極めて対応している | | |
| 26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | 可能な限り、御本人様・御家族様にホーム見学をして頂いたり、御家族様からも御本人様の生活習慣など多くの情報を伺い、職員全員で入居者の雰囲気づくりのための話し合いと工夫を必ず行っている | | 御本人様の希望に副うことを第一に職員一同考え、また少しでも早くGHを我が家と感じて頂けるよう会話・コミュニケーションを多く持つことを心がけている |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 | 毎日の生活にてコミュニケーションの時間に重点をおき、些細なことでも感情表現があった場合は、一緒に共感する気持ちで関係をつくっている | | 入居者が一番日常の生活で楽しみにしている食事の時間になかなか寄り添う時間が取れないため、出前寿司や焼肉など行事で企画した食事時は皆で食事が取れるよう配慮している |
| 28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 常に御本人様の日々の様子など情報の共有に努め、面会時職員も会話に入りながら一緒に御本人様を支援していく関係づくりをしている | | |
| 29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。 | 行事への参加を呼びかけたり、面会時には御本人様と御家族様が落ち着いて過ごせるよう配慮し、より良い関係づくりに努めている | | |
| 30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 御本人様の希望に合わせて、外出の機会をつくり在宅生活していた場所や馴染みの美容室やスーパーでの買い物など関係を継続する支援をしている | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|--|-------------------|-------------------------------|
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | 入居者同士の関係が仲良く保てるように関係性をしっかり理解し、ホールなど共有スペースに声かけ誘導を行い、職員が間に入り関係性を築きあげていく配慮をしている | | |
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | 入院にて退所された方の所へお見舞いに伺うなどし、関係の継続を心掛けている | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 意思の疎通が図れる方は本人の希望を取り入れ、困難な場合は御家族様の希望を尊重しながらADLやQOLを把握し検討している | | |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | アセスメントに重点をおき、また病状なども担当病院・担当医から情報を提供して頂き把握に努めている | | |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | 毎日の介護記録、職員からの情報とコミュニケーションを図りながら、出来ること・出来ないことを見極めて対応している | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 入居者・御家族様の思いや意見を聞き、一人ひとりのカンファレンスを行い、職員の考えを活かしながら介護計画作成に反映させている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|--|-------------------|---------------------------------------|
| 37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 1ヶ月に1回のモニタリング、3ヶ月毎に評価を実施し計画の見直し・継続の判断している。変化に伴い都度カンファレンスを実施し、検討した内容を基に介護計画の見直しを行っている | | 今以上に介護職員の意見を反映させ、プラン作成に携わる機会を多くしていきたい |
| 38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個別ファイルに1日の様子を必ず記録に残し、職員間での連絡ノートを活用することで情報の共有や実践、介護計画の見直しに活かしている | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 御本人や御家族様の意向により通院・リハビリ・自宅への外出・買い物などの支援をしている。散歩や体操、カラオケやビデオ上映など自然な形で活性化や心身機能の低下を防いでいる | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 町内の民生委員・市役所の退職者、町内会長・ボランティアなどと常に情報交換を行い支援している | | |
| 41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。 | 御本人の希望で以前入居していた施設を訪問したり、そこでの祭り行事に参加させて頂いている。訪問した施設で顔見知りとなった方が遊びに来られることがある | | |
| 42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 総合的に権利擁護・ケアマネジメント・入退居状況・相談事などの連絡を密にしている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|---|----------------------|---|
| 43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 入居者・御家族様の希望を取り入れ、状態に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。特変なければ2週に1回・4週に1回の定期受診を支援している | | |
| 44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 個人のかかりつけ医と状態の変化を相談し、紹介・助言を受けている | | |
| 45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | GH看護職員と常に入居者の健康管理や状態変化時に応じた支援を行っている | | |
| 46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 入院時には医療機関と連携し、御家族様とも情報交換や確認をしながら対応している。お見舞いや医療機関との電話や訪問などで状況の確認に努めている | | |
| 47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | 急性期においては医師や協力医療機関などの万全な受け入れ体制で、入居者が可能な限りの食・住を含め、快適で充実した過ごし方が出来るよう環境の整備を行っている | | 受診時なるべく付き添う職員を変えず同じ職員が医師・看護師と係わることで細かな状態・状況を報告する対応に努めている。入居決定時、御本人様と御家族様の意見や意向を把握している |
| 48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | 重度化した入居者の病状や言動・行動を把握し、看取り方などで出来ること・出来ないことを敏感に受け止め、御家族様や近親者の意思の確認を密にしている。出来ないことに関してかかりつけ医に相談し、職員間の連絡も密に行い、必要に応じてカンファレンスを実施している | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|---|-------------------|--|
| <p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> | <p>その人らしい暮らしが継続出来るように自宅での生活内容を把握し、規則正しい生活が送れるよう支援している</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p> | | | |
| <p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p> | <p>入居者一人ひとりを尊重する声かけや対応を心がけ、個人のプライバシーに係わることは他入居者にわからないように配慮している</p> | | |
| <p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>御本人様がどうしたいのかを1番に確認し、出来る限りの意思決定の支援をしている</p> | | |
| <p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>入居者一人ひとり、それぞれのペースで生活していけるよう、御本人様の希望を確認し、その希望に添って1日を過ごせるように支援している</p> | | <p>より細かいその人らしい生活の理解や把握ができるよう、今以上にセンター方式を活用していきたい</p> |
| <p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p> | | | |
| <p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> | <p>御本人様の好みや意向を持っている方に合わせた支援をしている。馴染みの訪問理容や通い慣れた美容院の利用を支援している</p> | | |
| <p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> | <p>個々の健康状態に合わせた調理方法、楽しんで食事が出来るよう盛り付けなど工夫し、職員と一緒に準備や食事・片付けをしている。食事だけでなく、その日のオヤツづくりなど入居者・職員と一緒に楽しみながら作る時間を設けている</p> | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|---|
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | 疾患など考慮しながら購入したり、御家族様からの差し入れなど楽しめるように支援している。喫煙に関しては場所を決めて喫煙している | | |
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 個別の排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。オムツ使用の入居者もいるが、排泄パターンを見ながら2人介助でトイレへ座ってもらい排泄を促している | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 入浴日を月・火・木・金に実施し、午前・午後に分けて週2回実施。入浴する曜日を変更すると不穏になってしまう方もおり曜日固定している方もいるが、希望聞かれた時はいつでも入れるような体制を取っている | | 浴槽に入る介助を2名で実施するなど安全・安心して入浴を楽しんで頂けるように支援している |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 個々の生活パターンを把握し、日々の生活の中で状況に応じて休息がとれるよう支援している。日中は散歩や活動を通じて、規則正しい睡眠が取れるよう支援している | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 洗濯物たたみやホールのもップ掛けなど職員と一緒に手伝ってもらったり、その方の得意分野を活かせるような支援を心がけている。編み物や折り紙など得意な方から教えてもらうなどし、コミュニケーションを図っている | | 本人希望によりフィットネスクラブに職員同行し、一緒に楽しみながら体を動かす楽しみを感じて頂いている |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | ほとんどの方はGHで管理しているが、希望に応じていくらかの金額を自分で所持・管理し使用している入居者もいる。外出や散歩時の買い物など本人にお金を手渡し、お金を使えるよう支援している | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|-----------------|---|--|-------------------|--------------------------------|
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 自宅への外出支援をしたり、天気の良い日には近所の散歩を一緒に楽しむなどホームに閉じこもらないような支援をしている | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。 | いちご狩りや美瑛までドライブに出かける機会を設けたり、年間行事予定に御家族様の参加を呼びかける企画を計画している。8月9日に焼肉を予定し、家族参加にて実施予定である | | 今以上に御家族様参加を積極的に声かけ、一緒に取組んでいきたい |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。 | 希望により居室に電話を引いたり個人で携帯電話を持っている方もおり、自由に御家族様や御友人などのやり取りができるよう支援している。御家族様より手紙が来た時は職員と一緒に手紙を書いて返事を出すような支援もしている | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | いつでも気軽に訪問できる環境を整えており、毎日訪問してくれる御家族様もいて心地よく過ごして頂いている | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 全職員で身体拘束は禁止行為であることを都度確認し合い、介護ミーティングやカンファレンスで話をしたり、研修にも積極的に参加し理解を深めている | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 日中施錠せず自由に外へ出られる状況であるが危険を伴う可能性もあるため、外へ出ることは止めずに必ず職員が同行し見守っている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|---|-------------------|---|
| 67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 常に一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、昼夜通して把握し安全確認している | | |
| 68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 危険物は物品庫に保管・鎖で施錠し、入居者が立ち入れないようにしている。個々の認知力の状況を把握し、入居者に危険であるかを判断し、危険と判断される物品はGH管理としている | | |
| 69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 個人のADLや認知力の把握に努め、予測される危険や事故を未然に防ぐよう努力している。記録・事故報告書にまとめ、職員全員が把握し、今後の予防策の検討に活かしている | | |
| 70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | 昼夜緊急時や誤嚥・転倒など基本的な手当て・対応についてマニュアルを作成し、マニュアルを参考に迅速な対応を心がけている。4月24日には職員・御家族様・近隣住民を交えて一般救急講習を実施している | | |
| 71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 避難訓練は年2回実施しており、5月19日には近隣住民も参加して消火器訓練など一緒に行っている | | 今後も運営推進会議で災害対策について協議していき、職員・地域住民と一緒に災害対策について考えていきたい |
| 72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。 | 御家族様と普段から関係づくりに努め、起こり得るリスクについて説明し、理解して頂けるよう努めている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|--|-------------------|---|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 毎日のバイタルチェック・顔色や食事摂取量などで体調の観察を行い、朝の申し送りや業務内で常に情報交換している。変化があった時は看護師へ報告・病院受診などし、迅速な対応に努めている | | |
| 74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 薬の説明書を個人ファイルに綴じており、内容や量の把握・理解を深めている。服薬内容変更あった時は特に体調の変化の有無に注意しながら観察し、医師に連絡し指示を仰いでいる | | 内服変更や注意事項など申し送り以外に、連絡ノートを利用し職員全員が把握できるようにしている |
| 75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。 | バランスの良い食事を提供し、繊維質の多い食事や乳製品・野菜ジュースなどの摂取を促している。毎日の排便を習慣づけるために定時トイレ誘導・リハビリを兼ねた運動を毎日行っている | | |
| 76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 毎食後の歯磨きは一人ひとりの力に応じて支援している。歯科受診や往診にて口腔ケアや指導を受けている | | 歯科衛生士による口腔ケアの勉強会・指導を検討している |
| 77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事・水分の摂取量は毎日チェック・記録し、情報を共有している。吸収効率の良い水分摂取のため、また水分確保の難しい入居者には本人の好む飲料水など用意して飲んで頂いている | | |
| 78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染症マニュアル作成、感染症の流行に随時対応できるように努めている。外出より帰宅時の手洗いや感冒に対しインフルエンザの予防接種は入居者・職員全員が受けている | | 使用後の便座の除菌、また冬場の感冒予防に受診・外出時のマスク着用の徹底を実施している |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|--|-------------------|-------------------------------|
| 79 | <p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p> | <p>毎日消費期限の確認、毎夕食後まな板や布巾の漂白を実施している。週1回冷蔵庫内の清掃を行っている</p> | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | <p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> | <p>玄関まわりに植木や花壇などの設置、野菜作りを行い、親しみやすく安心して出入りが出来るように工夫している</p> | | |
| 81 | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> | <p>玄関・食堂に季節を感じて頂けるように四季折々の鉢植えや花などを飾り楽しんで頂いている。季節に応じた装飾をし、楽しんで頂けるよう工夫している</p> | | |
| 82 | <p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> | <p>ホールにはソファを置いてくつろげる環境にし、それぞれ落ち着いて過ごせる場所でくつろいでいる</p> | | |
| 83 | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> | <p>在宅で使用していた家具やテレビを持参して頂き、家にいる時と同じような空間作り・居心地よく過ごせる環境づくりに努めている</p> | | |
| 84 | <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> | <p>天気の良い日や毎朝の掃除・リネン交換時には換気を行い、共有スペースの温・湿度計を目安に調節し、入居者の様子を確認しながら調整している</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|--|----------------------|--|
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 全床バリアフリーで廊下・入浴室など要所に手すりを設置しており、声かけや見守りを行いながら使用を促し、安全で自立した生活が送れるよう日々検討している | | |
| 86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | その人らしい生活を過ごして頂くために御本人様の言動や行動を認識し、混乱や失敗につながらないよう見守りや確認をしながら自立して暮らせるよう工夫している | | |
| 87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 中庭を利用し洗濯物を干したり、午後のお茶や散歩時の休憩場所として利用している。建物の外には四季の花々を飾ったり野菜を作り楽しんでいる | | 期間限定ではあるが中庭を利用して、七夕飾りやアイスキャンドルなどを作成し、入居者・職員一緒に季節感を楽しんでいる |

| . サービスの成果に関する項目 | | |
|-----------------|--|---|
| 項目 | 取り組みの成果 | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | <p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている | <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | <p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | <p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> |

| . サービスの成果に関する項目 | |
|-----------------|--|
| 項目 | 取り組みの成果 |
| 97 | <p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p> |
| 98 | <p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p> |
| 99 | <p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> |
| 100 | <p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p> |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

コミュニケーションの時間を多く持つことで、個々の入居者の意見・要望を把握し、毎日安心・満足感のある生活を支援を心がけている
玄関まわりの中庭の活用(花壇・野菜作り・生活感など)をし、入居者・職員とのコミュニケーションの場として一緒に作業を実施している
交流を図りやすくするために地域の方や他GHの職員の方々などには自由に見学して頂けるように開放している
年数回、幼稚園児やボランティアなどを招いて交流を図っている

地域密着型サービス事業者 自己評価表 (2 F)

(認知症対応型共同生活介護事業所) ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

| | | | |
|-----------|-----------------------------|---------|------------|
| 事業者名 | グループホーム あらた | 評価実施年月日 | 平成20年7月11日 |
| 評価実施構成員氏名 | 石川 ・ 河村 ・ 奥山 ・ 大橋 ・ 山口 ・ 清水 | | |
| 記録者氏名 | 石川 | 記録年月日 | 平成20年7月31日 |

北 海 道

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|---|-------------------|--|
| . 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念の共有 | | | |
| 1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。 | GHホーム理念として安心と尊厳のある生活、個人の性格、能力を發揮できるよう、地域住民としてその人らしく生活できるケアに努めている | | |
| 2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 毎日の朝礼にて企業理念の唱和を行う事で意識の統一と理念に基づき毎月1回介護ミーティングやショートカンファレンスを随時実施している | | |
| 3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。 | 定期的に運営推進委員会を実施し、事業主が町内会の役員を務めており、町内会の会合などでGHの取り組みを理解して頂けるよう取り組んでいる | | |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 玄関周りに植木や季節を楽しめるような花鉢の設置や野菜の栽培をしたり、入居者と散歩へ出かけた時や出勤・退勤時など挨拶をして、隣近所の方々と日常的なお付き合いが出来るように努めている | | |
| 5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 町内会の老人会、行事等には積極的に参加し、近隣の幼稚園児の訪問など地元の人々と交流を深めている | | 消防訓練の際、消火器訓練・救急救命の講習など積極的に声かけを行い、参加して頂いており交流を深めている |
| 6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 事業主が町内の役員をしている事から、役員などで数回地域の高齢者宅を訪問し、暮らしの状況を訪ねている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|---|----------------------|---|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | |
| 7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 前年度の評価内容を活かしながら朝礼や介護ミーティングなどで1つ1つ話し合ったり、記録に残し回覧するなどし、日々検討している | | 前年度の評価で指摘された救命救急法の勉強会の実施や個人記録方法の検討などを実践する。確認や見直しは意義のあることと職員一同理解し、今後も定期的な評価により、より良いGH作りをしていきたい |
| 8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 4月24日・5月19日・7月20日に開催し、意見の交換やGHでの取り組みなどの報告会を行う | | |
| 9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 市担当者と質問事項を通じて指導・助言を受けるとともに、直接市担当者が当ホームへ見学に来られるなどサービスの質の向上に取り組んでいる | | |
| 10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 司法書士より権利擁護に関する知識の指導を受けるほか、その都度状況・判断に応じたアドバイスを受けている | | |
| 11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 研修資料の回覧、介護ミーティング時に内容を報告し知識を高め、常日頃話し合いを行っている | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 入居者・御家族様と事前面談を行い、運営説明や入居に関する一切を事前に説明し、同意を得ている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|--|-------------------|---|
| 13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 苦情相談員を決め、意見・不満・苦情には速やかに管理者・職員で検討している | | |
| 14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。 | 月に1度入居者便りを発行し、GHでの生活状況、健康状態を直近の写真をつけて御家族様へ送付しており、特変時にはその都度、御家族様に連絡している。金銭管理は個々に出納帳で管理し、便りと一緒に送付したり御家族様の面会時に確認して頂いている | | 認知症に対する理解や日常の健康管理・病気に関する知識を深めて頂くことを目的に、様々な病気や対処方法など生活に役立つ情報を別紙にて送付している |
| 15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | GH玄関に御意見箱・用紙を設置し、意見を寄せて頂けるよう提示している。御家族様面会時に声かけを行い、要望などを聞いている | | |
| 16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 日々の業務内での会話から意見・提案を取り入れ、朝礼・介護ミーティング内での意見交換や個人面談をするなどし、職員の声を傾聴している | | |
| 17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。 | ゆとりのある時間を配分した上で、入居者の緊急時に即対応できるよう調整している | | |
| 18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | 都合により退職者がある場合、職員を事前に採用し引き継ぎなど時間をかけ、極力不安を感じないよう配慮している | | 職員の採用が内定した時点で当GHの雰囲気を感じながら入居者とコミュニケーションを深めて頂くために事前に時間を取り、交流を図ってもらう配慮をしている |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|---|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 積極的に研修に参加し、研修内容を休憩室に掲示したり介護ミーティングで報告して情報の共有を図っている。外部から講師を招いた勉強会も実施している | | |
| 20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 数社で介護支援に係る多様な情報を研修会などに参加し、グループワークを通じ、職員同士の交流を深め、質の向上に取り組んでいる | | 研修を通して交流を図り始めたGHからの依頼でアンケートに答えたり、以前職員が勤務していたGHなどと意見交換を行っている |
| 21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。 | 最低年2回以上、全員参加の親睦会を開き、個々の悩みや疲れを癒す相談窓口を設けている。また入居者の行事は職員に計画から実行まで任せ、入居者・職員ともに楽しめる時間をつくっている | | |
| 22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。 | 介護を一緒に行う中から個々の介護などに対する考え方などを把握し、基本理念に基づき個性の向上が活かされる環境づくりに努めている | | |
| . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 初期アセスメントに重点をおき、日々本人と話す機会を作り、本人が求めている希望を把握・受け止めるように心がけている | | |
| 24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 初期アセスメントに重点をおき、話し合う機会を設け、その都度御家族様からの相談を受け対応している | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|--|-------------------|--|
| 25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 初期アセスメントを重点におき、それに相応したサービスの説明を行い、内容を把握・理解して頂いている。御本人様・御家族様の意向なども合わせて確認し、必要とする支援を見極めて対応している | | |
| 26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | 可能な限り、御本人様・御家族様にホーム見学をして頂いたり、御家族様からも御本人様の生活習慣など多くの情報を伺い、職員全員で入居者の雰囲気づくりのための話し合いと工夫を必ず行っている | | 御本人様の希望に副うことを第一に職員一同考え、また少しでも早くGHを我が家と感じて頂けるよう会話・コミュニケーションを多く持つことを心がけている |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。 | 毎日の生活にてコミュニケーションの時間に重点をおき、些細なことでも感情表現があった場合は、一緒に共感する気持ちで関係をつくっている | | 入居者が一番日常の生活で楽しみにしている食事の時間になかなか寄り添う時間が取れないため、出前寿司や焼肉など行事で企画した食事時は皆で食事が取れるよう配慮している |
| 28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 常に御本人様の日々の様子など情報の共有に努め、面会時職員も会話に入りながら一緒に御本人様を支援していく関係づくりをしている | | |
| 29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。 | 行事への参加を呼びかけたり、面会時には御本人様と御家族様が落ち着いて過ごせるよう配慮し、より良い関係づくりに努めている | | |
| 30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 御本人様の希望に合わせて、外出の機会をつくり在宅生活していた場所や馴染みの美容室やスーパーでの買い物など関係を継続する支援をしている | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|---|-------------------|-------------------------------|
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | 入居者同士の関係が仲良く保てるように関係性をしっかり理解し、ホールなど共有スペースに声かけ誘導行い、職員が間に入り関係性を築きあげていく配慮をしている | | |
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | 入院にて退所された方の所へお見舞いに伺うなどし、関係の継続を心掛けている | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 意思の疎通が図れる方は本人の希望を取り入れ、困難な場合は御家族様の希望を尊重しながらADLやQOLを把握し検討している | | |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | アセスメントに重点をおき、また病状なども担当病院・担当医から情報を提供して頂き把握に努めている | | |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | 毎日の介護記録、職員からの情報とコミュニケーションを図りながら、出来ること・出来ないことを見極めて対応している | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 入居者・御家族様の思いや意見を聞き、一人ひとりのカンファレンスを行い、職員の考えを活かしながら介護計画作成に反映させている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|--|-------------------|---------------------------------------|
| 37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 1ヶ月に1回のモニタリング、3ヶ月毎に評価を実施し計画の見直し・継続の判断している。変化に伴い都度カンファレンスを実施し、検討した内容を基に介護計画の見直しを行っている | | 今以上に介護職員の意見を反映させ、プラン作成に携わる機会を多くしていきたい |
| 38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個別ファイルに1日の様子を必ず記録に残し、職員間での連絡ノートを活用することで情報の共有や実践、介護計画の見直しに活かしている | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 御本人や御家族様の意向により通院・リハビリ・自宅への外出・買い物などの支援をしている。散歩や体操、カラオケやビデオ上映など自然な形で活性化や心身機能の低下を防いでいる | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | |
| 40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 町内の民生委員・市役所の退職者、町内会長・ボランティアなどと常に情報交換を行い支援している | | |
| 41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。 | 御本人の希望で以前入居していた施設を訪問したり、そこでの祭り行事に参加させて頂いている。訪問した施設で顔見知りとなった方が遊びに来られることがある | | |
| 42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 総合的に権利擁護・ケアマネジメント・入退居状況・相談事などの連絡を密にしている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|---|-------------------|---|
| 43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 入居者・御家族様の希望を取り入れ、状態に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。特変なければ2週に1回・4週に1回の定期受診を支援している | | |
| 44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 個人のかかりつけ医と状態の変化を相談し、紹介・助言を受けている | | |
| 45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | GH看護職員と常に入居者の健康管理や状態変化時に応じた支援を行っている | | |
| 46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 入院時には医療機関と連携し、御家族様とも情報交換や確認をしながら対応している。お見舞いや医療機関との電話や訪問などで状況の確認に努めている | | |
| 47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。 | 急性期においては医師や協力医療機関などの万全な受け入れ体制で、入居者が可能な限りの食・住を含め、快適で充実した過ごし方が出来るよう環境の整備を行っている | | 受診時なるべく付き添う職員を変えず同じ職員が医師・看護師と係わることで細かな状態・状況を報告する対応に努めている。入居決定時、御本人様と御家族様の意見や意向を把握している |
| 48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。 | 重度化した入居者の病状や言動・行動を把握し、看取り方などで出来ること・出来ないことを敏感に受け止め、御家族様や近親者の意思の確認を密にしている。出来ないことに関してかかりつけ医に相談し、職員間の連絡も密に行い、必要に応じてカンファレンスを実施している | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|---|-------------------|--|
| <p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> | <p>その人らしい暮らしが継続出来るように自宅での生活内容を把握し、規則正しい生活が送れるよう支援している</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p> | | | |
| <p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p> | <p>入居者一人ひとりを尊重する声かけや対応を心がけ、個人のプライバシーに係わることは他入居者にわからないように配慮している</p> | | |
| <p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>御本人様がどうしたいのかを1番に確認し、出来る限りの意思決定の支援をしている</p> | | |
| <p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>入居者一人ひとり、それぞれのペースで生活していけるよう、御本人様の希望を確認し、その希望に添って1日を過ごせるように支援している</p> | | <p>より細かいその人らしい生活の理解や把握ができるよう、今以上にセンター方式を活用していきたい</p> |
| <p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p> | | | |
| <p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> | <p>御本人様の好みや意向を持っている方に合わせた支援をしている。馴染みの訪問理容や通い慣れた美容院の利用を支援している</p> | | |
| <p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> | <p>個々の健康状態に合わせた調理方法、楽しんで食事が出来るよう盛り付けなど工夫し、職員と一緒に準備や食事・片付けをしている。食事だけでなく、その日のオヤツづくりなど入居者・職員と一緒に楽しみながら作る時間を設けている</p> | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|---|
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | 疾患など考慮しながら購入したり、御家族様からの差し入れなど楽しめるように支援している。喫煙に関しては場所を決めて喫煙している | | |
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 個別の排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。オムツ使用の入居者もいるが、排泄パターンを見ながら2人介助でトイレへ座ってもらい排泄を促している | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 入浴日を月・火・木・金に実施し、午前・午後に分けて週2回実施。入浴する曜日を変更すると不穏になってしまう方もおり曜日固定している方もいるが、希望聞かれた時はいつでも入れるような体制を取っている | | 浴槽に入る介助を2名で実施するなど安全・安心して入浴を楽しんで頂けるように支援している |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 個々の生活パターンを把握し、日々の生活の中で状況に応じて休息がとれるよう支援している。日中は散歩や活動を通じて、規則正しい睡眠が取れるよう支援している | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 洗濯物たたみやホールのもップ掛けなど職員と一緒に手伝ってもらったり、その方の得意分野を活かせるような支援を心がけている。編み物や折り紙など得意な方から教えてもらうなどし、コミュニケーションを図っている | | 本人希望によりフィットネスクラブに職員同行し、一緒に楽しみながら体を動かす楽しみを感じて頂いている |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | ほとんどの方はGHで管理しているが、希望に応じていくらかの金額を自分で所持・管理し使用している入居者もいる。外出や散歩時の買い物など本人にお金を手渡し、お金を使えるよう支援している | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|-----------------|---|--|-------------------|--------------------------------|
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 自宅への外出支援をしたり、天気の良い日には近所の散歩を一緒に楽しむなどホームに閉じこもらないような支援をしている | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。 | いちご狩りや美瑛までドライブに出かける機会を設けたり、年間行事予定に御家族様の参加を呼びかける企画を計画している。8月9日に焼肉を予定し、家族参加にて実施予定である | | 今以上に御家族様参加を積極的に声かけ、一緒に取組んでいきたい |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。 | 希望により居室に電話を引いたり個人で携帯電話を持っている方もおり、自由に御家族様や御友人などのやり取りができるよう支援している。御家族様より手紙が来た時は職員と一緒に手紙を書いて返事を出すような支援もしている | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | いつでも気軽に訪問できる環境を整えており、毎日訪問してくれる御家族様もいて心地よく過ごして頂いている | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 全職員で身体拘束は禁止行為であることを都度確認し合い、介護ミーティングやカンファレンスで話をしたり、研修にも積極的に参加し理解を深めている | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | 日中施錠せず自由に外へ出られる状況であるが危険を伴う可能性もあるため、外へ出るとは止めずに必ず職員が同行し見守っている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|---|-------------------|---|
| 67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 常に一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、昼夜通して把握し安全確認している | | |
| 68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 危険物は物品庫に保管・鎖で施錠し、入居者が立ち入れないようにしている。個々の認知力の状況を把握し、入居者に危険であるかを判断し、危険と判断される物品はGH管理としている | | |
| 69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 個人のADLや認知力の把握に努め、予測される危険や事故を未然に防ぐよう努力している。記録・事故報告書にまとめ、職員全員が把握し、今後の予防策の検討に活かしている | | |
| 70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。 | 昼夜緊急時や誤嚥・転倒など基本的な手当て・対応についてマニュアルを作成し、マニュアルを参考に迅速な対応を心がけている。4月24日には職員・御家族様・近隣住民を交えて一般救急講習を実施している | | |
| 71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 避難訓練は年2回実施しており、5月19日には近隣住民も参加して消火器訓練など一緒に行っている | | 今後も運営推進会議で災害対策について協議していき、職員・地域住民と一緒に災害対策について考えていきたい |
| 72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。 | 御家族様と普段から関係づくりに努め、起こり得るリスクについて説明し、理解して頂けるよう努めている | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|--|--|----------------------|---|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 毎日のバイタルチェック・顔色や食事摂取量などで体調の観察を行い、朝の申し送りや業務内で常に情報交換している。変化があった時は看護師へ報告・病院受診などし、迅速な対応に努めている | | |
| 74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 薬の説明書を個人ファイルに綴じており、内容や量の把握・理解を深めている。服薬内容変更あった時は特に体調の変化の有無に注意しながら観察し、医師に連絡し指示を仰いでいる | | 内服変更や注意事項など申し送り以外に、連絡ノートを利用し職員全員が把握できるようにしている |
| 75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。 | バランスの良い食事を提供し、繊維質の多い食事や乳製品・野菜ジュースなどの摂取を促している。毎日の排便を習慣づけるために定時トイレ誘導・リハビリを兼ねた運動を毎日行っている | | |
| 76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 毎食後の歯磨きは一人ひとりの力に応じて支援している。歯科受診や往診にて口腔ケアや指導を受けている | | 歯科衛生士による口腔ケアの勉強会・指導を検討している |
| 77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事・水分の摂取量は毎日チェック・記録し、情報を共有している。吸収効率の良い水分摂取のため、また水分確保の難しい入居者には本人の好む飲料水など用意して飲んで頂いている。きざみやとろみをつけるなどし咀嚼・嚥下しやすいように一人ひとりに合わせて提供している | | |
| 78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 感染症マニュアル作成、感染症の流行に随時対応できるように努めている。外出より帰宅時の手洗いや感冒に対しインフルエンザの予防接種は入居者・職員全員が受けている | | 使用後の便座の除菌、また冬場の感冒予防に受診・外出時のマスク着用の徹底を実施している |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|--|-------------------|-------------------------------|
| 79 | <p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p> | <p>毎日消費期限の確認、毎夕食後まな板や布巾の漂白を実施している。週1回冷蔵庫内の清掃を行っている</p> | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | <p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> | <p>玄関まわりに植木や花壇などの設置、野菜作りを行い、親しみやすく安心して出入りが出来るように工夫している</p> | | |
| 81 | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> | <p>玄関・食堂に季節を感じて頂けるように四季折々の鉢植えや花などを飾り楽しんで頂いている。季節に応じた装飾をし、楽しんで頂けるよう工夫している</p> | | |
| 82 | <p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> | <p>ホールにはソファを置いてくつろげる環境にし、それぞれ落ち着いて過ごせる場所でくつろいでいる</p> | | |
| 83 | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> | <p>在宅で使用していた家具やテレビを持参して頂き、家にいる時と同じような空間作り・居心地よく過ごせる環境づくりに努めている</p> | | |
| 84 | <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> | <p>天気の良い日や毎朝の掃除・リネン交換時には換気を行い、共有スペースの温・湿度計を目安に調節し、入居者の様子を確認しながら調整している</p> | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んで きたい項目) | 取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む) |
|---|--|----------------------|--|
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | |
| 85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 全床バリアフリーで廊下・入浴室など要所に手すりを設置しており、声かけや見守りを行いながら使用を促し、安全で自立した生活が送れるよう日々検討している | | |
| 86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | その人らしい生活を過ごして頂くために御本人様の言動や行動を認識し、混乱や失敗につながらないよう見守りや確認をしながら自立して暮らせるよう工夫している | | |
| 87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 中庭を利用し洗濯物を干したり、午後のお茶や散歩時の休憩場所として利用している。建物の外には四季の花々を飾ったり野菜を作り楽しんでいる | | 期間限定ではあるが中庭を利用して、七夕飾りやアイスキャンドルなどを作成し、入居者・職員一緒に季節感を楽しんでいる |

| . サービスの成果に関する項目 | | |
|-----------------|--|--|
| 項目 | 取り組みの成果 | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている | ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない |

| . サービスの成果に関する項目 | | |
|-----------------|---|--|
| 項目 | | 取り組みの成果 |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

コミュニケーションの時間を多く持つことで、個々の入居者の意見・要望を把握し、毎日安心・満足感のある生活を支援を心がけている
玄関まわりの中庭の活用(花壇・野菜作り・生活感など)をし、入居者・職員とのコミュニケーションの場として一緒に作業を実施している
交流を図りやすくするために地域の方や他GHの職員の方々などには自由に見学して頂けるように開放している
年数回、幼稚園児やボランティアなどを招いて交流を図っている